新型コロナウイルス

日本共産党

「国難」を乗り越えるため、力をあわせよう



2月26日、市議団とともに医療スタッフが市に要請しました。

猛威をふるう新型コロナウイルス感染症。いま国民のいのちと健康、雇用、生業、経営などを守る政治の責任が問われています。

独自に検査窓口の確立を

新型コロナ対策について、日本共産党は議会で取り上げると同時に、３回にわたって「感染拡大防止に関する申し入れ」を提出。その結果、市民からの問い合わせに対応する窓口体制が強化され、市が備蓄している２万７千枚のマスクの一部が緊急措置として市内救急病院や介護施設に配布されました。

３回目の「申し入れ」では、市内医療機関及び救急病院の医療崩壊を防ぐ手立てとして、保健センターに「接触者外来」専用窓口を設置すること、PCR検査機器を購入し、独自に検査する体制をつくるよう提案しています。

議会最終日には、「機動的な財源措置を含め、積極的な対策を」求める決議が全会一致で可決。党派をこえた感染症対策の取り組みが求められています。



市内ドラッグストアの様子。不安解消は政治の責任です。

2020年度予算―698億円　過去最大

くらし・生業・安全・街づくり『応援プラン』を提案！

予算の0.5%でできる

2020年度の流山市一般会計予算は、約698億円と過去最大規模となりました。日本共産党は、予算の0.5%（約３億８千万円）のやりくりで、すぐにできる『応援プラン』を提案し、市民福祉の増進を強く求めました。

『応援プラン』は、「奨学金」や「福祉タクシー券拡充」、「就業」にとどまらず、事業所の継続や地域経済の振興と街の安全・安心を一体で支える仕組みを応援する施策です。右表以外にも、既にある補助金等を活用し、市内事業者への積極的な発注の奨励を提案しています。

人口増加の“光と影”

人口増加は、市税の大幅な増加や街の勢いを示す“光”である一方、大幅な支出を支える財源として「市債発行」や「基金取り崩し」の増大という“影”の部分も。また、「夫婦共働き子育て世代がターゲット」と進めた市長の人口誘致策は、学校・保育園などの「受け皿」整備の遅れによって不満が噴出しています。さらに20年度予算では、人口増加の対応に追われるあまり、将来的な人口推計と整合がとれず、高齢者・障がい者福祉制度の充実の妨げとなっています。



東深井小学校の危険なコンクリート塀を緊急撤去する地元事業者

2020『応援プラン』

『生活』応援	看護師等奨学金 拡充 （対象枠：20→40人、対象職種拡大）	720万円
	【新規】国民健康保険 多子世帯（対象：208世帯）への均等割減額	470万円
	福祉タクシー券 拡充 （発行枚数：柏・松戸市なみに拡大）	2,200万円
『生業』応援	【新規】介護施設従事者 処遇改善 （対象：460人・年間36万円の賃金改善）	1億6,560万円
	認可保育園の障がい児受入「補助」増額 （受入施設：5 → 25 施設）	4,000万円
	【新規】零細企業への超過課税 廃止 （対象：712社　税率：12.1%→9.7%）	3,222万円
『安全』『街づくり』応援	災害用備蓄 強化　3年間の時限措置	500万円
	【新規】街の安全向上事業　3年間の時限措置 （戸建耐震改修、危ないブロック塀等の除去・改修、台風被害の住宅修繕に10万円上乗せ）	1,000万円
	救急医療体制 強化	9,200万円
合　計＝3億7,872万円（予算0.54%）		

流山市加4-1688　TEL／FAX（7157）6140　メールアドレス　giindan@nagareyama-jcp.jp
ホームページ　http://www.nagareyama-jcp.jp/　流山市議会　TEL（7158）1111

ご意見・ご要望をお寄せください



左から、小田桐たかし市議、植田和子市議、いぬい紳一郎市議、高橋あきら市議。

市民の願いが前進

日本共産党４議席

市民が声をあげれば市政は動かせます。

2020年度予算には、「切実な願いの実現を」とみなさんとともに要求してきた数々の改善が盛り込まれました。

これからも、一人ひとりの声に耳を傾け、「だれひとり取り残さない」市政の実現をめざします。

教育　アルバイト漬けの学生生活から抜けられる



今年４月から、看護学生に対する給付制奨学金制度が実現。月３万円（年間36万円）が支給され、アルバイトをして学費をねん出している苦学生を応援します。

東葛看護専門学校の学生たちは約９千筆の署名を市に提出し、５年間の運動で実現しました。

くらし　償還払いから現物給付へ

『ひとり親家庭の医療費助成』について、「現物給付を」と求める日本共産党の質問に、「来年度の実施に向け、準備を進める」と答弁。一歩前進です。

現在は、病院窓口でいったん医療費を立て替え払い（中３までの子どもは200円）し、申請書を市に提出すれば医療費が戻ってくる『償還払い』となっているため、一定額の現金がないと受診ができません。また、子どもに使うお金を優先するため、親は体調が悪くても、受診を後回しにするなどの実態も。

他県では、受給者証などを提示すれば医療費の窓口払いがない『現物給付』が広がっており、1日も早く実現すべきです。

さらに実現へ　力あわせましょう

補聴器購入の助成を

70才以上の約半数が加齢性難聴といわれ、コミュニケーション能力の低下による認知症やうつ病の原因にも。補聴器の早期装着は難聴の進行を遅らせ、高齢者の生きがいにもつながります。他市では実現され、高い効果を示しており、補聴器への公的助成を流山市でも求めていきましょう。

「気候非常事態宣言」を提案

地球規模の「気候危機」が叫ばれていますが、流山市ではTX沿線開発により森と緑が大幅に消失。パリ協定で2050年に温暖化ガス「実質ゼロ」をめざす世界の流れに逆行しています。「国の政策が変わらなければ難しい」（市長）の一言にとどめず、まずは足元から「気候危機打開を」の声を広げましょう。

市議会　ねほり はほり

腎臓病患者さんらが託した署名 不採択に

市議会では「国への意見書提出」を求める請願が審査に。内容は、腎疾患総合対策の早期確立を求めるもので、腎臓病患者さんらの署名1,634筆が添えられていました。

しかし、「国会で議論済み」を理由に残念ながら不採択。賛成11：反対16（流政会８人、自由民主党４人、公明党４人が反対）。委員会を傍聴した患者さんたちは「腎臓病や透析の大変さなどの質疑もせずに反対。悔しい」「病気を抱えて生きる大変さに聞く耳を持ってほしい」と涙をこぼされました。

一方、透析患者さんの通院を支える福祉タクシー券の拡充について、委員会審査では「研究したい」と前向きな答弁があり、「実現に向けて議会に頑張ってほしい」との声も寄せられました。

いじめへの不適切対応、教員の『体罰』…教育長辞任へ

昨年、いじめや「体罰」の実態がテレビ報道された流山市。日本共産党は、保護者らの文科省要請等にも寄りそい、改善を求め一緒に運動。市長も、とうとう４月から、いじめ・不登校などの児童生徒への支援等を行う「対策室」を新たに立ち上げることになりました。

一方、教育長は任期を残し、辞任を発表。いじめ・教員の「体罰」による被害への支援、再発防止など真摯な反省、風通しの良い組織への刷新や取り組み強化が求められています。



子どもの笑顔と成長のために、みんなで力を集めよう

身近な要求実現



街路樹を剪定（流山3丁目）
いぬい紳一郎



江戸川台駅東口喫煙所撤去
植田和子



在宅訪問入浴サービスが拡充
小田桐たかし



溢れる排水溝の解消（前ヶ崎740地先）高橋あきら